

サバのオイルパーム

大澤雅彦 (自然保護助成基金理事)

(東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授)

10月、マレーシアのサバ州デラマコットという森林伐採区でオランウータンに関連した植物調査をやっている学生の現地指導のため何年ぶりかでサバに行った。コタキナバルで1泊し、旧知の本屋をのぞいたりして、翌日サンダカンに飛んだ。期待して窓際に席を取ったが、キナバルはあいにく雲が厚く、切れ目にちょっとだけ見えた。そのうち窓の外が直線的なパターンで一面単純な植生になっているのに気づいた。サンダカンから西、タワウ山の麓のデラマコットへ4輪駆動車で向かう途中でそれが一面のオイルパーム・プランテーションであることに愕然とした。4時間あまり走り続けたが、両脇は切れ目のない連続したオイルパームだった。森林伐採は単純な択伐方式から低インパクト型伐採などいろいろ工夫をしているが、一方でこれほど森林が失われてプランテーションに変えられていることには疎かった。これなら、再び森林に戻る用材伐採のほうがどれほどましかと思った。

マレーシアは世界最大のパームオイルの生産輸出国である。世界の油と油脂生産量の18%強がパームオイル、そのうち1/3以上をマレーシアが生産している。1848年、オランダ人がアフリカから観賞用にボゴール植物園に持ち込み、1917年商業栽培開始。栽培法やパームオイルの処理方法の改良が進み、栽培面積は1960年から30年間に45倍以上に増加、マレーシア国土の7.6%に達している。大量に使われる農薬や肥料の問題など議論にもなっていないのは背筋が寒くなる思いであった。

低地林についてはインドネシアも似た状況で、スマトラ、カリマンタンでは現在のスピードで低地林の伐採が続けばそれぞれ2005年(2年後!)、2010年にはなくなるというINFORMによる予測のキャンペーンを、9月に南アフリカ、ダーバンで開かれた世界公園会議でやっていたが、その現実味を実感した。主原因がオイルパーム・プランテーションで、そのほか木材産業、違法伐採、農業の拡大などが原因である。

マレーシアでは20万家族がオイルパーム産業に生計を依存しているという。しかも、労働者は海外から流入して、現地雇用はそれほど進んでいない。土地や森林伐採の権利についてもインドネシアではスハルト時代に強制的に収用されたところや地方自治体と巨大企業との関係で、地元民の権利は無視されている。経済的な差し迫った状況に追われる政府。森林保護と地元の人々の共存についての明確な方向性を提示できない専門家や国際社会にも問題がある。それにも増して最近の保護問題の厄介な点は、当事者間のコミュニケーションや信頼関係が成り立たなくなっている点である。伐採の問題点、熱帯多雨林保護の必要性は理解できる、しかし、伐採する、というのは明らかに信頼関係崩壊の兆しのように思えてならない。最近、日本でも綾の照葉樹林が世界遺産級の価値があることは認めるが、それでも送電線は建設するという九州電力の態度に同じものを感じる。現在の地球環境問題を克服するにはさまざまな当事者の信頼・協力関係の確立が不可欠である。

平成 15 年度 助成 事業 報告

平成 15 年度当基金の助成総額 4,700 万円

I. (財) 日本自然保護協会との共同事業による公募助成	24 件	2,200 万円
II. (財) 世界自然保護基金ジャパンの事業助成	3 件	250 万円
III. (財) 日本自然保護協会の事業助成	2 件	250 万円
IV. 地球の友 (F o E) ジャパンの事業助成	3 件	200 万円
V. 財団創立 10 周年特別公募の事業助成	5 件	1,450 万円
VI. その他の助成	4 件	350 万円

平成 15 年より 16 年にかけて助成(内容は下記)

助 成 内 容	助成額
I P. N. ファンド第 14 期(平成 15 年度)助成(明細次頁)	2,200 万円
II (財)世界自然保護基金ジャパンへの独自事業助成	
・白保海域におけるサンゴ礁モニタリング調査	100 万円
・北方四島における自然保護活動支援	50 万円
・ズグロカモメに関する国内調査及び国際調査プログラム作成	100 万円
III (財) 日本自然保護協会への独自事業助成	
・海辺の生態系特に干潟・藻場の保全	200 万円
・泡瀬干潟自然環境調査	50 万円
IV 地球の友 (F o E) ジャパンへの独自事業助成	
・シホテーアリニ森林地帯の開発・保護動向調査	}
・シホテーアリニの少数民族 NGO への支援	
・サハリン島における石油開発・パイプライン建設の動向調査	
V 創立 10 周年特別助成事業	
・有明海・諫早湾の底層環境の変化とそれが底棲生物に与える影響 (2 年間) (有明海・諫早湾底層環境調査研究グループ)	250 万円
・人間活動による有明海のリン・窒素・珪素環境の変化 (2 年間) (有明海低次生態系モデリンググループ)	300 万円
・諫早湾干拓事業に伴う「有明海異変」に関する保全生態学的研究 (2 年間) (諫早湾保全生態学研究グループ)	400 万円
・有明海北部における表層流の動向と赤潮発生の関係について (2 年間) (有明海表層流観測グループ)	400 万円
・三宅島の噴火災害地における生態系の保護と復元に向けた生態学的基礎研究 (5 年継続) (1 年目) (三宅島自然研究グループ)	100 万円
VI その他の助成	
・泡瀬における海草移植の調査 (泡瀬干潟を守る連絡会)	50 万円
・「教え! 東アジアの湿地と干潟」シンポジウムと演劇を通して東アジアの湿地の保全を アピールする (東京ウェットランドウィーク実行委員会)	100 万円
・「緑と平和の国際公園: ユートピア実現へのあらたな試み」 (緑と平和の国際公園シンポジウム実行委員会)	100 万円
・陸・海一帯の白保サンゴ礁生態系の保全と新石垣空港建設計画の見直しをアピール するパンフレットを発行する (八重山・白保の海を守る会)	100 万円

国内調査研究助成

単位:千円

No.	研究テーマ	助成先	代表者	助成額
1	南大東島に隔離分布するダイウコノハズク個体群の保全に関する研究	ダイウコノハズク保全研究グループ	高木 昌興(大阪市立大学大学院 理学研究科 講師)	1,230
2	父島のオガサワラオオコウモリの保全生態学的研究	オガサワラオオコウモリ研究グループ	福葉 慎(小笠原自然文化研究所 主任研究員)	830
3	世界最南限のイワナ個体群「キリクチ」の保全生態学的研究	淡水生物研究会	渡辺 勝敏(京都大学大学院 理学研究科 助教授)	800
4	スキー場を集水域に持つ河川に見られる窒素汚染	長良川・溪流の保全を考える会	村上 哲生(名古屋女子大学 教授)	800
5	亀岡産アユモドキの生活史とハビタット利用に関する研究 -水田水域生態系のシンボルフィッシュ-	亀岡・人と自然研究会	岩田 明久(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 助教授)	900
6	屋久島原生自然環境保全地域におけるスギ林の20年間の森林動態	ヤクスギ原生林研究グループ	武生 雅明(東京農業大学地域環境科学部 講師)	800
7	関東周辺のアヒメコマツ個体群の現状とフェノロジー比較	房総のアヒメコマツ研究グループ	尾崎 輝雄(千葉県立中央博物館 研究院)	900
8	西表島浦内川河口域の生物多様性と伝統的自然資源利用の総合調査	西表島浦内川流域研究会	松本 千枝子(西表島自然史研究会 事務局長)	1,000
9	西表島における亜熱帯林の再生動態と種多様性保全に関する基礎的研究	南西諸島亜熱帯林研究グループ	相場 慎一郎(鹿児島大学理学部 助手)	530
10	エゾシカの餌選択とミネラル要求性	道東エゾシカ研究グループ	北原 理作(東京農業大学生物産業学部植物資源研究室 副手)	850
11	ツキノワグマ四国種多地域個体群の生息状況把握	特定非営利活動法人 四国自然史科学研究センター	町田 吉彦(四国自然史科学研究センター センター長)	890
12	金沢城公園における樹木伐採等の擾乱が動植物と生態系に及ぼす影響	金沢城公園生態系保全研究会	中村 浩二(金沢大学自然計測応用研究センター)	1,000
13	炭素・窒素安定同位体を用いたツキノワグマの「駆除」個体の生息環境履歴の解明	信州ツキノワグマ研究会	林 秀剛(信州ツキノワグマ研究会 代表)	1,160
小計				13件 11,690

国内活動助成

1	「蒲生干潟の明日を考える集い」の開催と鳥類生息調査報告書の出版	蒲生を守る会	佐場野 裕(聖和学園興等学園 教諭)	650
2	三浦半島(神奈川県)におけるトウキョウサンショウウオ遺伝子の多様性の保護	三浦半島自然誌研究会	金田 正人(三浦半島自然誌研究会 事務局)	700
3	普天間飛行場代替施設(辺野古沖軍民共用空港)建設計画に係わる市民からの環境影響評価	市民アセスなご	浦島 悦子	1,100
4	宮崎県内におけるイヌワシ調査と保護活動	NPO法人ひむか里山自然塾	岩切 重人(NPO法人ひむか里山塾 理事長)	1,000
5	絶滅危惧種ヒスマイトンボの生態学的研究と観察会による保全活動	自然史教育談話会	渡辺 守(筑波大学生物科学系 教授)	1,000
6	かながわ野生化ライグマの分布調査と普及啓発パンフレットの作成	かながわ野生動物サポートネットワーク アライグマ・プロジェクト	栗山 久世(パウペットクリニック 獣医師)	450
7	ゼニタナゴ保全活動(ゼニタナゴシンポジウム)	ゼニタナゴ研究会	北島 淳也(大阪教育大学小学校教員養成過程)	700
8	「続 里山の暮らし 土浦市穴塚」の作成	穴塚の自然と歴史の会	及川 ひろみ(穴塚の自然と歴史の会 理事長)	1,000
小計				8件 6,600

海外調査研究助成

1	中国海南島におけるカワウソ2種の保全生物学的研究	中国海南師範学院 海南野生動物保護管理研究センター [中国]	李 玉春 [小金澤正昭 宇都宮大学農学部附属演習林 教授]	1,200
2	インドネシア、バプア州ジャムルスバメティ地域における絶滅に瀕したオサガメ個体群を保護するためのふ化率調査	インドネシアウミガメ研究センター	Mr. Akil Yusuf [菅沼 弘行 エバーラスティング・ネイチャー 会長]	1,350
3	ネパール熱帯域における生物多様性に関する研究	トリブヴァン大学自然史博物館	Keshab Shrestha [渡邊 政俊 竹文化振興協会]	1,160
小計				3件 3,710
助成金総額				合計 24件 22,000

平成14年度決算ならびに平成15年度予算

当基金では平成15年5月12日に第21回理事・評議員会を開催し、平成14年度の事業報告、決算報告及び平成15年度の事業計画、収支予算案が承認されました。決算と予算は下表の通りです。

平成14年度決算ならびに平成15年度予算

(単位：千円)

項 目	平成14年度		平成15年度
	予 算	決 算	予 算
(収入の部)			
基本財産運用収入	49,000	47,763	65,000
運用財産収入等	100	950	50
前期繰越金	22,431	22,431	21,950
収入合計	71,531	71,144	87,000
(支出の部)			
事業費	34,000	32,673	48,000
活動助成	(10,000)	(11,720)	
調査研究助成	(15,000)	(12,380)	
海外調査研究助成	(8,000)	(7,650)	
事業管理費	(1,000)	(923)	(2,000)
管理費等	17,065	16,521	18,190
次期繰越金	20,466	21,950	20,810
支出合計	71,531	71,144	87,000

「第9回プロ・ナトゥーラ・ファンド助成成果発表会」

- 日時：2003年12月13日(土) 10:15～17:00
- 場所：こどもの城(8F 801～804 研修室) TEL: 03-3797-5677
- 主催：(財)自然保護助成基金・(財)日本自然保護協会
- 参加費：無料(どなたでもお気軽にご参加ください)
- お申し込み：直接会場へお越し下さい。途中参加も可能です。
- 詳細はホームページ (<http://www1.big.biglobe.ne.jp/~pronat/>) をご参照下さい。

事務局スタッフ交替

事務職員の福田 泉が今年4月末をもって退職し、藤尾かず子が引継ぎ致しました。

編集後記

今年は地球温暖化のせいか、世界的に気象の乱れが激しく、動物や植物達も戸惑っている状態でした。

私共の財団もお蔭様で本年度で設立10周年を迎えました。これもひとえに皆様方のご支援、ご協力の賜物と一同感謝致し、これを期に決意を新たにして、さらに自然保護のために一層の努力をしてみたいと存じます。

毎年恒例の言葉を残念ながら今年もまた申し上げなければなりません、来年こそは良い年になりますように念じて止みません。 記 岡本 和子

Pro Natura ニュース 第13号

発行者：財団法人 自然保護助成基金

発行年月日：平成15年11月27日

〒150-0046

東京都渋谷区松濤 1-25-8

松涛7ネクス 2階

TEL: 03-5454-1789 FAX: 03-5454-2838

E-mail: pro-natura@uj.biglobe.ne.jp

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~pronat/>